

[令和6年度] 第12回 飯田市新文化会館検討委員会 会議録

会議名称	第12回 飯田市新文化会館整備検討委員会
開催日時	令和6年12月19日(木) 午後7時00分～9時00分
開催場所	飯田文化会館 展示室1～3
出席委員 (敬称略・順不同)	片桐啓、上沼俊彦、川崎好昭、塩澤哲夫、原田雅弘、黒河内智子、飯島剛 小木曾俊夫、遠山あづみ、前澤正徳、森本典子、小澤櫻作、佐々木宏幸、山元浩
欠席委員 (敬称略・順不同)	高松和子、田中悦雄、松岡一成、桑原利彦、佐々木祥二
オブザーバー (敬称略)	井坪隆 (欠席)
出席事務局職員	教育委員会：教育次長 秦野高彦、統括支援担当専門主査 松下徹 文化会館：館長兼新文化会館整備室長 筒井文彦 新文化会館整備係：係長植松一成、岩下裕輝 事業係：館長補佐兼係長福澤信幸、白井美樹、中島弘貴 管理係：係長和田健太郎 人形劇のまちづくり係：係長永田麻美子
会議の概要	1 開 会 2 議 事 (1) 基本計画の検討状況の報告【資料1】 ①第1回専門家会議【資料2、3】 ②第2回専門家会議【資料4～8】 (2) 意見交換【別紙：意見交換シート】 テーマ：施設の分散段階的な整備は、基本構想の実現にどのように影響するか 3 事務連絡 4 閉会

※会議録（発言）には委員の氏名を掲載いたしません。

令和6年度 第12回 飯田市新文化会館整備検討委員会 会議録

令和6年12月19日（木） 午後7時00分 開会

1 開 会

○委員長 皆さん、こんばんは。定刻となりましたので、ただいまから第12回新文化会館整備検討委員会を開催します。本日は、ご多用のところ、また、お寒い中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日は高松委員、田中委員、桑原委員、佐々木祥二委員、オブザーバーの井坪さんから欠席のご連絡がありましたので、報告させていただきます。

本日は、私たちが考えてきた基本構想、基本理念を実現するには何が必要なのか、どんな工夫をしたらいいか、忌憚のないお考えをお聞かせください。

議事に入る前に事務局から連絡事項がありますのでお願いします。

○次長秦野 教育委員会教育次長の秦野です。よろしくお願いします。

本日の委員会は、今年3月28日の第11回整備検討委員会以来、今年度になって初めての開催ですので、委員の皆さんに、委員の委嘱、委員の交代、オブザーバー、事務局体制についてお願いとご案内をさせていただきます。

初めに、委員の委嘱ですが、第11回整備検討委員会にて、委員の皆さんには基本計画策定にもお力添えを頂きたいことから、任期の延長をお願いさせていただきました。

委嘱状につきましては、今年度初めにお手元にお届けしております。任期は2年となりますが、引き続きお力添えをよろしくお願いします。

続きまして、委員の交代がございますので、ご紹介させていただきます。校長会を代表して今年度から丸山小学校の松岡校長先生にお願いしています。また、オブザーバーは、引き続き井坪隆さんにお願いしています。

後ほどご説明させていただきますが、専門家会議で飯田市と共同で事務局を担っている有限会社空間創造研究所の皆さんも本日は出席しておりますので、ご承知おきください。空間創造研究所の草加さんは、第4回整備検討委員会で講師を務められた方です。

最後に、飯田市の事務局体制ですが、今年の4月1日に組織変更を行い、新文化会館整備室を新設しました。室長に筒井、係長に植松、係員に和田、岩下が配属しておりますので、よろしくお願いします。

連絡事項につきましては以上です。

○委員長 ありがとうございました。

2 議 事

○委員長 それでは早速議事に入ります。

(1) 基本計画の検討状況の報告

○委員長 (1) 基本計画の検討状況の報告ということで、事務局お願いします。

○室長筒井 それでは事務局から資料の説明をさせていただきます。

本日の資料ですが、次第以外に資料1から資料8までと別紙の意見交換シート、アンケートを配布しておりますので、ご確認ください。

第11回の整備検討委員会で説明させていただきましたが、基本計画は、専門家会議を中心に、たたき台を検討・作成させていただき、素案については、整備検討委員会の皆さんとも意見交換を行いながら、成案化に向けて進めていく考えであるとお伝えさせていただきました。本日は、専門家会議の経過を基に報告させていただきます。

まず、資料1として、ニュースレター11号をご覧くださいと思います。

8月23日に開催しました第1回専門家会議をまとめた内容となっており、専門家会議の委員として、整備検討委員会の学識委員3名の方と、先ほど話がありましたが事務局として、空間創造研究所の皆さんにもご支援を頂いています。

専門家会議は、基本計画と管理運営計画を検討するにあたり、専門家の皆さんからご意見をいただく場として開催していますが、基本構想策定後に整理された現在の状況とそれに伴う課題3点をまずは共有させていただき、専門家の皆さんからご意見を頂きました。

ニュースレターの2ページ目左に「現在の状況」という帯で、1点目「建設費が急激に高騰し、先を見通せない状況になってきている」、2点目「基本構想を具現化するためには広大な敷地が必要となる」ということ、3点目として「リニア中央新幹線の工期延長に伴い市の長期財政見通しの見直しが必要になる」という3点について、共有させていただきました。

実は、この1点目の建設費の急激の高騰は、全国的に厳しい状態が続いており、先月11月に、私どもも注視しておりました秋田県の横手市が、1,300席ほどのホールの建設が入札の段階までいっていましたが、一時中断を決定したと発表され、また、兵庫県の豊岡市でも、3度にわたり入札が不調に終わり、新築から大規模改修に方向転換するという発表もありましたので、全国的にもこの1点目の建設費の高騰は非常に先を見通せない状況であることを

共有させていただきました。

これらの現状をどう考えていくかということで、第1回目の専門家会議ではいろいろなご意見を頂きました。ニュースレターの最終ページをご覧ください。現状の課題はありますが、「現状の課題をいかにプラスにできるか。段階的、分散型の整備の可能性も含めた検討をしていくことで、この現状の課題をプラスに考えて、次に進められるのではないか」というご意見をいただきました。詳細は、資料を進めながらご説明させていただきます。

続いて、資料2をご覧ください。こちらも第1回専門家会議の資料です。

皆さんにご検討いただいた基本構想や基本理念と5つの基本方針を実現するために、どのようなホール構成や諸室が必要になり、どのくらいの規模かと言うと、2.7ヘクタールから3.4ヘクタールほどが駐車場も含めると必要と想定されます。分かりやすくイメージしていただくために、資料の一番下に飯田市役所の敷地にメインホールとサブホール、駐車場を配置した場合の面積が囲まれています。飯田市役所庁舎と駐車場だけでは配置できずに国道を挟み、動物園と四季の広場も含めるような広大な敷地が必要になるということをイメージとして出しています。

続きまして、資料3です。こちらも第1回の専門家会議の資料です。時間の都合で細かくはご説明しませんが、以前に整備検討委員会でもエリアごとの適地調査の結果を報告しました。その結果と、基本構想の中で非常に大切と捉えている基本方針の「集う」を実現するために考慮すべきことを表した表です。こういったことも専門家会議では検討させていただいています。

続いて、資料4です。第1回の専門家会議で3つの課題を共有し、専門家の皆さんからいろいろご意見を頂いた上で、飯田市としての検討の方向性として第2回の専門家会議の冒頭で示させていただきました。

飯田市としての検討の方向性、1点目「創造的なアイデアで基本構想の具現化を追求する」。

2点目、「飯田ひろば」が非常に重要なキーワードとして出していただいております、『飯田ひろば』としての『集う』機能の実現を追求する」。

3点目、「機能一体型の整備に加えて、機能を分散し段階的に整備する方法を含めて検討する」ということで、これまでは整備検討委員会では1つの場所に一体型で整備することを念頭に検討いただいてきましたが、「これまでお話した3つの課題を次に進めるとすると、施設を分散して段階的に整備する方法も含めて検討したらどうか」という意見を頂いております。

4点目、さらに「実質的で利用しやすい施設づくりを追求する」ということで、「華美な施

設ではなく、実質的な施設づくりを追求することが必要ではないか」とのご意見をいただいたところです。

さらに、資料5として、一体整備は今までも検討しておりましたが、「機能を分散し、段階的に整備する方法の優位点と課題」をそれぞれ表にまとめさせていただきました。

表の下に書いてありますが、第2回専門家会議の中では、機能を分散して段階的に整備する方法でも、基本構想の基本理念を損なうことなく具現化できるかの可能性を議論いただいた資料です。

続きまして資料6は、「施設の機能と規模の想定」。こちらも今日は詳しくご説明できませんが、これまで一体整備として検討してきましたが、2カ所に分散する場合の組み合わせと3カ所に分散する場合の組み合わせも考える必要があるのではないか。旧飯田市公民館や鼎文化センター、飯田市それぞれの地区のホール構成をイメージしながら、こういうパターンも考えられるのではないかということで、このような資料も用意しました。

さらに資料7として、一体整備と分散整備とした時に、どういう組み合わせとそれを判断していくにはどのような視点があるのかを、右側に8つの選択判断の視点として記載しています。上2つの「基本構想の実現」と「文化振興、まちづくりへの波及効果」の視点は、これまでご議論いただいた基本構想・基本理念を実現する上では非常に重要な視点と考えられるので、この8つの視点の中でも特に重要視し、下枠の「整備候補エリアの選定も考慮しながら、選択判断の視点とポイントに照らして検討し、整備方式と整備候補エリアを絞り込んでいく」作業を、今後行っていく必要があるとご議論いただいています。

最後に資料8を説明します。第2回の専門家会議で出していただいた意見のポイントをまとめた資料です。たくさんのご意見を頂いておりまして、まず一番上に書いてありますが、「施設を分散し段階的に整備する方法でも、基本構想の基本理念等を損なうことがなく具現化でき、現在の状況に対応しながら整備できる」というご意見を総体的には頂いています。ただし、いろいろと検討する課題やメリットとデメリットがあるので、太字で記載した部分が今後さらに検討の必要があるのではないかというところです。

分散的な整備が本当に可能かどうかは今後、検討を進めていく必要があります。ですから、本日皆さんからご意見いただきたいのは、これまで一体整備を想定して基本構想を検討いただきましたが、分散整備を検討するにあたり、どういうことがメリット、デメリットで出てくるかということです。資料8の太字で記載した部分を簡単に説明させていただきます。

1番、今まで市民の皆さんがどのような活動をしてきたかを考慮して、組み立てていく必

要があるということ。

2 番、新しい施設がリニア開業後の市民活動にも大きく関わってくるとのこと。

3 番、他の地域で郊外型や中心市街地型といったホールがありますが、それらの特性を調べて当市に合った、フィットするものを検討する必要があるのではないかと。

4 番、交流促進と創造支援の機能が「飯田ひろば」としてのメインコンセプトなので、その機能をどのように付随させるかが非常に重要になってくる。

5 番、アクセシビリティ、つまり、そこにどうアクセスできるか。特に車を運転しない方々の集まることも考えていく必要がある。

6 番、基本構想の「ひろば」を周辺一帯を含めて空間的に表現する方法もあるのではないかと。

7 番、多目的ホールの技術が進化しており、コストとバランスを検討する必要があるが、新しい技術を活用して基本理念の達成を目指すこともできるのではないかと。

下のほうに行き 12 番、施設の一体整備は、人の賑わいが一体にできるということだが、分散整備は、利用者の間口や選択肢を増やすことができるのではないかと。

14 番、分散整備は機能を分散させることでそれぞれに発揮できることが魅力であり、活動が多様化していく中では有効ではないかということ。

15 番、複数の箇所で人の賑わいが施設の外にしみ出るのは非常に魅力ですが、一方で機能の組み立て方など考慮する点は増える。

16 番と 17 番は共通して言えることですが、建築費や資材費が高騰し、今後もさらなる上昇が想定され、一体型にしても分散型にしてもその点は非常に懸念されること。

特に最後の 17 番ですが、分散整備の場合、床面積が増えることと管理運営の人材が必要になります。分散整備によって全て解決するわけではなく、限界点は訪れるので、長期的に見てどんなバランスを取っていけばよいかを計画することが必要であるといったご意見も頂いているところです。

長くなってしまいましたが、資料の説明は以上です。この 2 回の専門家会議にご出席いただいた 3 名の学識委員の方から補足と会議の様子などをお伝えていただければと思いますので、お願いしたいと思います。

○学識委員 改めまして、よろしくお願いします。

専門家会議で新たなキーワードになった「分散」「段階的」に対して、私たちも資料が多くて戸惑っていたところもあるのですが、それぞれの専門的な立場や経験からコメントをさせていただきました。

私からは、他館、他市の事例を何回かお話させていただきました。私が以前勤めておりましたところには、大きなホールが1つあるのですが、人口規模からして、その1つがあれば、全てが集約でき、そこ1つで完結するわけではありません。人気が集中し、土日の予約が全然取れないとなると、皆さん、それぞれの活動にフィットしたサイズの場所を探し、発表の場として、それぞれが希望の順位で抑えていきます。「私たちはここがお気に入り」という形で利用されているという事例をお話させていただきました。

これは、公共ホールを運営する立場からの意見ですが、公共施設マネジメントという考え方があります。それぞれの特性などを活かし、どこかに片寄ることなくいろいろな施設を利用していただくことで、効率化と長寿命化を目指していくということもあり、常に連携しながら話し合い、いろいろとやっているところもあるのですが、そのように1つにまとめるのではなく、分散は分散のメリットがあるので、そういったところも見えていった方がいいのではなどの意見をさせていただきました。

私からは以上です。

○室長筒井 ありがとうございました。

続いて、お願いします。

○学識委員 皆さんご無沙汰しております、よろしくお願いします。

いろいろと皆さんのご意見を伺いながら、基本構想ができ、その後、専門家会議が始まったということです。

専門家会議の中で、基本的には一番の前提として、基本構想自体の中身の何らかを変更することは行わず、基本構想を実現するためにどういう計画があり得るのが議論の根底にあると私自身は理解しています。先ほど、筒井室長から「一体整備を前提に」というお話がありました。私自身は一体整備ということも基本構想には入っていないので、基本構想の中身は基本的には変更されていないというのが前提にあると思います。

その中で、専門家会議の中の議論で、新たな前提あるいは状況として加わったことが2つ、1つは建設費の高騰というコストの問題。もう1つは、基本構想の時には皆さん関心がありながらも議論をしなかった立地の問題。専門家会議においては、この2つのことを考慮に入れて、基本構想を実現するためにはどのような計画が可能かが議論されたと理解しています。

そこで出てきたのが分散配置と、段階整備です。すなわち、リニアの開業遅れと建設費が高騰して一体的に整備をするコストがかなり大きくなっている、そういう中で、段階的に整備するという選択肢もあり得るのではないかとというのが1点。

それから立地のこと、例えば丘の上とかそういったところを考えると、一体整備というの

はかなり難しくコストがかかる。しかし基本構想の中の「集う」という機能を考えれば、交通アクセスの良さは非常に重要である。それであれば分散という考え方もあり得るのではないかという段階と分散という考え方が出てきた。

段階と分散という2つの考え方はある意味親和性が高い。段階的に整備するといろいろな場所を選ぶことができるというのが専門家会議でのこれまでの議論だと思います。

なので、基本構想の段階でいろいろと意見を交わしていただいた皆さんに、お伺いしたいことは大きく2つあると思います。1つは、分散配置・段階整備とした時に実現できなくなってしまう基本構想の中身があるのか、ないのかということで、それが非常に重要なことだと思います。それからもう1つは、段階的に開発をするということであれば、基本構想そのものが変わってしまうかもしれないというご意見。

その2つが今日の会議の中で非常に重要で、基本構想策定に関わられた皆さんからのご意見になると理解しておりますので、ぜひその辺りを基本構想の時にいろいろ思い描いていたことと、今、段階的な開発もあり得るのではないか、分散配置ということもあり得るのではないかなったとき、その辺りのご意見をお伺いできればと思っています。

時間も限られて、皆さんもいろいろとご意見あると思いますが、本日もよろしくお願いします。

私からは以上です。

○室長筒井 ありがとうございます。

続いて、お願いします。

○学識委員 今、きちっとお話いただいたので、その後にお話するのは申し訳ないぐらいなのですが。

ニュースレターで以前の発言をまとめていただいているので、それを読みながら思い起こしたのですが、「分散」や「段階的」という新しいワードが出てきていますが、私は頭の中では最初から既存の鼎や人形劇場といったホールをすぐになくすというイメージは元々持っていなかったです。この会は、新しいホールをつくるための会議ですが、新しいホールが完成した後も並行して既存のホールも動かしていくのだろうと考えています。様子を見ながら、それら実際、鼎のホールや人形劇場もかなり老朽化しているので、いつまでもずっと続くとは思っていませんが、ある程度手を加えながら同時並行で走らせていき、様子を見て、良いタイミングで新しいホールに集中していくのかどうかと考えていますが。なので、私の中では、分散っていうのは新しい考えではなかったです。元々が分散というか、今あるホールと新しいホールというふうに思っていました。

実際にアフィニスの音楽祭からオケ友の音楽祭になっていますが、そういうものもいくつかのホールを使い、いろいろな拠点に活動や発表の場を設けています。多分、飯田の皆さんのいろいろな活動もそれぞれの地域の公民館や舞台設備を持った施設で練習をし、最終的な本番を飯田文化会館で行うとか、日頃の練習活動は、それぞれの地域でやってらっしゃると思うのですが、そういう拠点はいろいろな地域に必要なようになってくるのではないかなと思います。なので、今すぐにそれらをなくすのではなく、この後のリニアが開通した後の飯田のまちづくりにも大きく関わってくると思うので、今までの施設とうまく並行しながらやっていく。それがゆくゆくは段階的な整備につながるかなと、なんとなく思っています。

とは言いながら、新しいホールはできるだけ多機能でいいホールをつくれるといいなとは思っています。思っていますが、現状なかなかやっぱり厳しいものがありますので、その辺りのメリット、デメリットをいろいろと皆さんとまた考えながら進めていければいいなと思っています。

よろしくお願いします。

○室長筒井 ありがとうございます。

続いて、専門家会議の事務局を飯田市と合同で担っております、空間創造研究所の草加さんからもコメントをお願いします。

○草加 空間創造研究所の草加と申します。

初めてごあいさつをさせていただく方もいらっしゃるかと思いますが、基本構想を検討されている時に一度だけお話をさせていただきました。

最終的に5つの基本方針「集う」、「観る」、「創る」、「伝える」、「育む」という「感動の飯田ひろば」という魅力的な基本構想が皆さんのお知恵を生かしてできていると拝見しております。

これを今度は、基本計画として、場合によっては設計者、あるいは建設会社の方たちにこんな施設が欲しいということを定量的に示していくのが、最終的な基本計画の大きな役割です。

ただ、その中でニュースレターに記載がありますように、「大きな課題が3つある」という説明がありました。建設費の急激な高騰、これは分散で整備しても一体で整備しても同じ課題がかかってくるということです。

それからもう1つは敷地の問題です。市所有の広大な敷地がないので、中心市街地につくろうと思えば、大きな土地取得費が必要になる。少し離れていけば、少し軽微になります。

3つ目のリニア中央新幹線との関係は、皆さんがどうこうできる問題ではなく、市として

ジャッジをしていただく大きな課題になると思います。

考えなければいけないのは、1でも、実はもう2でもなく、どういう施設が欲しいのかということが一番重要なキーワードになってくるのだと思います。

先ほどお話がありましたように、基本構想を実現するためにどう考えていくのか。もしかしたら段階整備、それから分散整備がこの基本理念を阻害する要因があるのかもしれない、それを含めてご意見をお伺いできればと考えています。ぜひよろしくお願いします。

○室長筒井 ありがとうございます。

議事（1）の報告は以上となります。

○委員長 ありがとうございます。

ただいま議事（1）の検討状況の報告ということで説明がありました。

ご質問等ありましたらご発言いただきたいと思います。

発言される場合にはお手数ですが、挙手いただき、お名前をおっしゃってから着座のままでご発言いただくようお願いします。

なお、議事の（2）では意見交換ということで、グループに分かれて思いなどを話していただく時間がございますので、ここでは全体で共有すべき確認事項やご質問の発言をいただければと思います。よろしくお願いします。

どうぞ。

よろしいですか。

（発言する者なし）

○委員長 それでは、班の話し合いになった時にも、学識委員の皆さんが各班にいらっしゃいますので、質問が生まれたらご質問いただければと思います。

（2）意見交換

○委員長 それでは続いて、意見交換に進みたいと思います。

進め方を事務局から説明をお願いします。

○室長筒井 それでは、本日の意見交換ですが、3班に分かれて行いたいと思います。正副委員長、学識委員、草加さんも、各班にご移動をお願いします。

意見交換のテーマですが、先ほどもご意見いただいております、この分散型・段階的整備によって、基本構想の実現にどのように影響するのかです。別紙の意見交換シートをご覧くださいながらご議論いただければと思っています。

なお、このシートの中に基本構想の5つの基本方針「集う」、「観る」、「創る」、「伝える」、

「育む」の記載があります。これらのポイントをどう分散的・段階的整備に生かすか、プラスの面マイナスの面がどう出てくるかということをお願いしたいと思います。

班分けは、今着席いただいているところに学識委員の方と事務局が入らせていただきます。

意見交換の時間は 45 分、発表の前に 5 分、発表時間は 10 分をお願いしたいと思います。最終的には発表していただきますので、まず各班で発表者を決めていただいてから、意見交換へ入っていただきます。時間になりましたら、事務局から合図させていただくので、よろしくお願いします。

それでは学識委員の皆さん、正副委員長も各班に入ってください、意見交換をお願いします。

(班別意見交換)

○委員長 よろしいでしょうか。

それでは、各班で出されたアイデア、あるいはまとめられた話等の発表を 1 班からお願いします。

○1 班 面白い意見がいっぱい出ました。私の個人的な意見ですが、最初に来たときはみんなが集中して集まる大きな場所を思い描いていました。しかし、回を重ねると、特に今回費用のことや時間軸の大きな問題があり、1 つにこだわらなくても基本構想の理念から外れなければいいとお聞きし、そこからいろいろな面白い話をお聞きしました。盛り上がったのは、そうは言っても丘の上は文化・教育の拠点であってほしい、商業の方たちもなんですが、文化・教育の拠点である丘の上で分散することもありかなという話になりました。

そうなった場合に、飯田市の施設は丘の上にもたくさんあります。それが今、例えば動物園に年間 10 万人、図書館にも年間 10 万人、ムトスぷらざにも 10 万人の人が来るが、そこがつながって、そこからの波及があまりない。1 つの施設に行って完結してしまうのはもったいないので、もし、丘の上で分散したら、分散してつくって終わりではなく、ほかの施設にも波及し、「あそこにも行ってみよう」「こっちにも行ってみよう」「お店にも行ってみよう」と人が流れる、つながる、回遊する場所になってほしい。そういう目的を持って 3 つがつくられたらいいなという話でした。

ただ、そうなると、駐車場や交通手段の問題もあります。今「プッチー」が稼働していますが、市電とは言いませんが、丘の上だけでなく、坂道を上る下るなどして広い範囲から人を集められる新しい交通手段も、施設だけでなく共通で考えていければ面白いかなというこ

とと、少し出たのが小中一貫校や学園構想のお話の中で、「どこかの学校が空いてしまった場合はそこも活用したら素晴らしいのではないか」という話も出ていました。

とにかくいろいろな年代の方たちがその施設を介してつながって「集う」楽しいまちにしていくということかなと思いました。

○委員長 ありがとうございます。

次に2班お願いします。

○2班 まとまらないかもしれませんが、今、1班からも出た「分散の中でいくと、そのつながりを持っていけばいい」ということが2班でも出ました。それぞれが分散しても、各施設が機能をしていく、それぞれの機能を備えていけば、分散は分散でいいのではないかとこのところ。でも、「やはり一体型が本当は理想である」というところは出ていました。

あと、現実の状況を考えると土地取得の問題や、費用のこと、それから分散したときのコストや、人員配置の管理、運営管理等と細かいところでいろいろ皆さんからの意見をいただきました。

○委員長 ありがとうございます。

次に、3班お願いします。

○3班 3班です、よろしくお願いします。

この班で話に出たのはまず「一体型が理想であろう」です。いろいろな面を考えると、やりやすい方法ではないかということで、ただ一体型となりますと、市の中心地から近いところ、できるだけ近いところの場所が必要になるが、それは非常に難しい問題であると話が出ています。

それで、分散型になった場合はどうだろうと話し合いましたが、分散すると力が集約できないという問題と、一体型整備に比べて管理運営、また人材が余分にかかってしまうことも考えられると話が出ました。

それで、一体型でも分散型でも、運営は集約して1つの場所で行い、分散した施設を管理、運営していくことが大事なのではないかということ。それと、人材は、もうすぐ新しい施設ができるから集めるのではなく、今からでも人材育成を考えていかなければいけないのではないか、特に分散型になると、人材がたくさん必要になる。人材が集まりにくいという問題も出てくるので、対策を考えていく必要があるのではないかということ。

それと「基本理念の『集う』、『創る』、『伝える』、『育む』、この中で一番ネックになるのが『集う』ではないか」ということでした。話し合いをした中で、『集う』が非常に大事な『飯田ひろば』ということと、それが分散型になるとどうできるか」が出て、各施設で「集う」

を前提に、どう考えて運営し、状態を持っていくかもしっかり考えていく必要があるのではと思います。

そういった話がいろいろ出ましたが、中心市街地でなくても郊外も検討していく中で、公共交通手段をどう考えていくかが大事になり、ネックにもなってくるのではないかと思います。

これからいろいろな意見を出し合って、どういう状態に持っていかがかかなり大変なことになるのではないかと思います。また、この会議も何回か開かれると思いますが、私も真剣に考えていきたいと考えております。

まとめませんが、以上になります。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、学識委員の皆さんからも今の発表を受けて、あるいは全体を通してコメントを一言ずついただければと思います。

○学識委員 本日はどうもありがとうございました。

私のいた班では、最初、「分散」という新しいキーワードで驚かれていたようでしたが、ただ、急に出てきた課題を考えつつも、未来のことを考えて、もっと良くしていくためにと、話の盛り上がり方がとてもすごいなと思いました。

と言いますのも、正直にお話しますと、最近全国で、新しくホールを整備される自治体で飯田市を含めて3つお手伝いしているのですが、2つは中断になりました。2つとも入札まで行こうとしていたのですが、入札にたどり着かず、物価高騰、財源確保が難しいなどの背景で止まってしまいました。

そういう姿を見てきているのですが、今日特に思ったのは、整備は一時止まってしましますが、文化を止めてはいけない。そこが止まってしまうと再び動き出すのにすごい力が必要になってしまおうと感じております。

なので、飯田市でも、今回の課題が出てきた時に、それを乗り越えていく力がこういった会議、市民の皆さんからドンドン出てくるというのが飯田の力なんだと改めて感じる機会となりました。

まだまだ課題が多い整備計画となっていくと思います。この物価高を背景に課題が増えると思いますが、この力をどうぞ維持されて、皆さんで乗り越えていけたらと思います。これからもどうぞよろしくお願いします。

私からは以上です。

○委員長 ありがとうございます。

それでは続いて、お願いします。

○学識委員 ありがとうございます。今、おっしゃったように、建築費の高騰というのは大変な問題になっています。新しい建築だけでなく、いくつかのホールが今、改築を迎えて、リニューアル工事の期間を設けたのですが、やはりお金が足りず工期が伸びたり、入札が不調になるなどの問題が出ています。それだけ深刻な問題です。

それはそれですが、今回、分散型や段階的といろいろなキーワードが出て、皆さんも戸惑っていらっしゃるかと思いますが、冷静に考えれば、今と何ら変わることなく、この飯田文化会館が新しく綺麗にどこかの場所になり、それもお金がないので規模縮小するというのではなく、やはり夢を持ってちゃんと次の世代につなげる良いホールをつくるという話をしながら、今の既存のホールや、いろいろなエリアでの文化活動が止まらず、停滞しないで継承していくことを考えながら、これからはまた次の段階に進めたら良いなと思っています。

今おっしゃった、飯田の皆さんが長年いろいろな文化を継続されてきた力は、我々よその人間から見て、独特な地域だと思っています。皆さんとまたいろいろお話を重ねながら、次のステップが見えるのではないかなと思っています。

ありがとうございます。

○委員長 ありがとうございます。それでは続いて、お願いします。

○学識委員 私は1班の議論をお伺いしていたのですが、まさに基本構想で皆さんのいろいろな議論を聞いていたときの非常に活発な意見交換が再び起きて、またいろいろと勉強させていただいたという思いです。

1班の報告にもありましたが、「集う」という視点から、分散型と段階的をどう捉えるかの議論だったのですが、それを聞いていて、基本構想にある「集う」が2つの側面を持っているということに気づかされました。1つ目がアクセス、その場に行くという行為。もう1つ目は「集う」ことによって交流するという行為。

皆さんの「集う」という思いの私自身の理解の中では、少し曖昧だったなということに気づかされ、要はそこに行けるということと、交流するということの両面をまず捉えていかなければいけないというのは、私にとっての貴重な気づきでした。

まず、アクセスというのを考えた場合、その施設ごとの利用者がそこに行ける、要は車をお持ちではない方は歩いて行くとか、自転車をお持ちの方は自転車で行くとか、車で行ける人は車で行くという、施設ごとのアクセスがある気がしました。そうすると施設が分散していても、それぞれの施設の利用者層がアクセスできる場所にあれば良いということになると感じました。

次に、いろいろなご意見を聞いていると「交流というものが非常に重要である」というご意見がたくさんありました。そうすると、「交流ということを考えると、分散した場合に、その間のつながり、それが重要である」と。「それが『集う』の意味である」というご意見がたくさん出たのが非常に印象的でした。

その交流という側面で有機的なつながりというのを捉えた時に、その有機的なつながりというのは何か。有機的なつながりが、分散という物理的、空間的な環境によってどのような影響を受けるのかという辺りが非常に重要であると思いました。

そういった中で出た意見として、要はモビリティ、移動手段について、例えばパーソナルモビリティとかコミュニティバスであるとか、あるいは、この前アメリカで乗って驚いたのですが、自動運転レベル 4.5 ぐらいまでいっているようなタクシーも出てきています。そうすると移動手段の整備によっては、有機的なつながりというものがある程度広いエリアでも大丈夫となる。

そう考えてみると、交流や有機的なつながりというのは、モビリティによってどこまで距離が広がるのか、どこまで近づかなければいけないのかというエリアの範囲を決めていくのだなと感じました。すなわちそれが、例えば丘の上での分散なのか、飯田市の中での分散なのか、もっと大きな範囲の分散なのかに影響を及ぼすのだなと思って聞き、非常に勉強になりました。

そういった中で、分散の一つのメリットとして「分散した施設の間の移動が、まちの賑わいを生み出すこともあり得る」というご意見もあり、この文化会館の整備は、例えば分散の可能性が入ってきた時には、街のグランドデザイン的な、要は文化会館の話だけではなく、飯田市の、あるいは丘の上の都市構造みたいものを捉えた上で、文化会館のありようも考えていかなければならないということを、1 班の議論を聞いて考えさせられた点でした。

今後、専門家会議も続いていくと思うのですが、また基本構想という視点から今日みたいな議論をお伺いする機会が持てればと思っております。

本日はどうもありがとうございました。

○委員長 ありがとうございます。

それでは続いて、空間創造研究所の草加さんお願いします。

○草加 お疲れ様でした。

私は 2 班の話しか聞いておりませんが、「やっぱり一体整備だろう」との意見がまず出され、「リニア駅の近くでも良いので一体整備で、なおかつ段階整備をしたらどうか」という話もありました。ただし、「3 ヘクタールの土地をリニア駅の近くで確保するのも難しい」とい

う話も市の方からありました。その一方で、委員の皆さんの中から「高齢化が進んでいるし、少子化も進み人口減少している」と。だったらもう1つの選択肢として、施設規模をギュッと「一絞りする」という選択肢もあるのかなと思いながら聞きました。

今、3ヘクタールぐらい必要なのを2ヘクタールにしようと思うと3割ほどを減らさないと数値的には入らない。そうなると、メインホールの席数は1,300席が900席ほどになっていく。それでも一体整備を選択するという話があるかもしれないと思いながら話を聞かせていただいた。

それでも、リニア駅周辺まで行くと、公共交通がちゃんと整備されていないとそこまで行けない方が出てくる。確かに高齢化・少子化だと、公共交通機関を整備しなければ高齢者が生きていけない世の中になるかもしれない。そう考えると、それもあるのかなと思いました。一方で、リニア駅の敷地というのが、皆さんにとってすごく遠くではないという印象だとすると、今ここに文化会館と人形劇場がある。たまたまですが、サブホールに匹敵する鼎文化センターがあるとすると、第一段階としてメインホールをリニア駅の近くに整備し、それから人形劇場を中心市街地とは言わないかもしれないが、この近くにつくり、なおかつ鼎をリニューアルしていくという選択肢もあるのかなと思いながら聞いていました。

「一体整備という方法で、その後に分散しても理念は壊れないだろう」という意見がある。なおかつリニアの敷地は、それほど遠隔地ではないという印象があるという中で、どういう選択があるのかを今後考えていくのかなと思われました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

それぞれの班で活発な議論がなされ、いろいろな視点から意見交換、情報交換できたかなと思います。ありがとうございました。

それでは最後に、事務局の秦野次長から本日のまとめを含めて、次回に向けての方向をお願いしたいと思います。

○次長秦野 本日は夜遅くまで熱心なご議論、ありがとうございました。

私は1班で少し進行をさせていただいたのですが、初めにどちらかというと負の条件をこちらから提示をさせていただいたという思いが私にはありまして、どんな議論になるのかなと思っていました。分散について、どんなイメージをお持ちになるかはすごく不安でもあったのですが、皆さんと話をしている中で、ふと気づかされた。

先ほどもおっしゃられていましたが、今まででも、人形劇がそうでしたが、この飯田市全体を使って様々な文化活動が展開されている。そんな中で、基本構想が本当に実現できるか

を考えた時に、できるのではないかという流れになり、ものすごくワクワクする議論になったと、私は1班の中で感じさせていただきました。

こういうワクワクするようなホールになる、施設になるということがいくらでも考えられるんだと、すごく明るい思いを抱かせていただいた1班の皆さんの会話だったと思います。

今、いろいろな課題がたくさんあります。1班の中に出ていたように、「ホールだけではなくて街の全体を考えることも必要」という意見もいただいています。

そんな中、今まで基本計画は今年度末までに策定すると進めてきていましたが、いろいろな条件や検討しなければいけない課題がたくさんありますので、今年度末ではなく、来年度にかけて基本計画を検討し考えていきたいと思っております。

これからも、任期をさらに2年ということをお願いしたところなので、専門家会議ともども、皆さんのお力とご意見を賜りながら進めていきたいと思っておりますので、今後もよろしくお願い申し上げます。

○委員長 ありがとうございます。

本日予定しておりました、議事は以上となります。

委員の皆さんには積極的な会、あるいは発言、ご参加いただいてありがとうございました。

3 事務連絡

○委員長 それでは、最後に事務局から事務連絡をお願いします。

○係長植松 事務局の植松と申します。

本日は貴重な意見をたくさん聞かせていただきまして、誠にありがとうございました。引き続きまたよろしくお願いします。

私のほうから2点連絡をさせていただきたいと思います。

お手元にアンケート用紙をお配りさせていただいておりますので、本日言い足りないことや、本日の感想等をお聞かせいただければ幸いですので、後日事務局へご提出をお願いします。

もう1点、次回の整備検討委員会ですが、開催日は今のところ未定です。開催日程が決まりましたら改めてご通知を差し上げたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いします。連絡は以上です。

4 閉 会

○委員長 以上で第12回整備検討委員会を閉会します。

ありがとうございました。

閉 会 午後 9 時 00 分